

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【東牟婁振興局】 重点プロジェクト〔半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化〕
～みくまの産地協議会が第2回UIターン就農相談フェアに出展～

令和4年11月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

| | 頁数 |
|---|--------------|
| I 海草振興局 | 1-3 |
| 1. クビアカツヤカミキリ被害の発生状況調査を実施 | |
| 2. 種しょうが収穫調査を実施 | |
| 3. 河西農業士会簿記研修会を開催 | |
| 4. みかんの出前授業を実施 | |
| II 那賀振興局 | 4-5 |
| 1. 有機農産物・特裁農産物の販路拡大～那賀地方有機農業推進協議会～ | |
| 2. 安楽川小学校で「地場産農産物についての出前授業」を実施 | |
| 3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催 | |
| III 伊都振興局 | 6-8 |
| 1. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施 | |
| 2. クビアカツヤカミキリ被害対策研修及び農作業安全研修を開催 | |
| 3. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会の開催 | |
| 4. 各農業団体が橋本市まっせ・はしもとで地域農産物をPR | |
| IV 有田振興局 | 9-11 |
| 1. 保田小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！ | |
| 2. 糸我小学校児童表敬訪問（農業体験報告） | |
| 3. 「みかん」の贈呈式及び出前授業開催！ | |
| 4. 第114回有田中央高等学校農産物品評会の審査 | |
| 5. 吉備湯浅PA（上り）において「有田みかん」の日本農業遺産認定をPR | |
| V 日高振興局 | 12-13 |
| 1. 日高地方4Hクラブ連絡協議会が日高地方農村青年交流会を開催 | |
| 2. 日高地方農業士会女性部会現地研修会を開催 | |
| VI 西牟婁振興局 | 14-16 |
| 1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】 ～ウメ「南高」摘心樹のせん定講習会を実施～ | |
| 2. 農繁期を前に、農作業安全講習会を実施 | |
| 3. 女性農業者セミナーを開催 | |

| | |
|--|--------------|
| Ⅶ 東牟婁振興局 | 17-18 |
| 1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほを設置～ | |
| 2. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会が第2回U I ターン就農相談フェアに出展～ | |
| 3. 「県産みかん」の提供に係るみかん出前授業を実施 | |
| Ⅷ 農林大学校 | 19 |
| 1. 1年生インターンシップ研修を実施 | |
| Ⅸ 就農支援センター | 20 |
| 1. 令和4年度 第2回 U I ターン就農相談フェアを開催しました | |

I 海草振興局

1. クビアカツヤカミキリ被害の発生状況調査を実施

クビアカツヤカミキリは、さくら、うめ、ももなどバラ科樹木の内部を幼虫が食害することで枯死させる。令和元年度に初めて県内での被害が確認され、令和2年度には海草管内でも被害が確認されている。

被害拡大を防ぐためには早期発見が重要になることから、6月に引き続き11月にも過去の発生場所を中心とした85カ所の悉皆（しっかい）調査と、管内に設置した定点40カ所の調査を実施した。

今回は関係者延べ32人で実施し、初確認された地点周辺での拡大が確認された。現在は、早期に発見・伐採を行っていることで急激な被害拡大は抑えられているが予断を許さない状況にある。

今後も、巡回調査や発生園周辺の悉皆調査を行うとともに、農業者や地域住民に周知・啓発することで早期発見と適切な防除指導に努めていく。



発生状況調査の様子

2. 種しょうがが収穫調査を実施

11月17日、和歌山市種生姜生産促進協議会（会員：和歌山市、JAわかやま、JAグループ和歌山農業振興センター、和歌山県（振興局農業水産振興課、農業試験場、果樹園芸課、経営支援課））が、市内で生産拡大に取り組んでいる種しょうがの収穫調査を行った。

和歌山市は全国有数の新しょうがの産地であるが、その生産に用いる種しょうがは主に県外産地から調達している。そのため、県外産地で種しょうがが不作の場合には、量の確保が難しくなるとともに、価格も高騰することから経営が圧迫される。

このことから、H27年に当協議会を設立し、和歌山市内産の種しょうが生産に取り組んでいる。

今年度は、8名の生産者が水田転換畑で種しょうが栽培に取り組んだ。4月下旬から5月上旬に植え付けし、生育期間中は、協議会メンバーで毎月巡回指導を行い、11月下旬から収穫が始まった。収穫直前に協



収穫直前のしょうが

議会メンバーで収穫調査を行い、収穫した種しょうがの1株当たりの重さや茎数、茎の長さ、茎の数等を測定した。また、種しょうがには、収穫量だけでなく品質（充実度）も求められ、後日、県農業試験場において乾物率を測定する予定である。今回の収穫調査結果は、生産者との意見交換会で報告するとともに次年度の栽培に活かしていく。



収穫調査の様子

3. 河西農業士会簿記研修会を開催

11月14日、21日、28日の3回に渡り、河西農業士会（会長：増田恵一郎氏）が中州出荷組合会議室で簿記研修会を開催した。この研修会は、昨年度、新たに青年農業士に認定された4名に、農業簿記を学んでもらうために企画し、講師は、当課の宮向課長が務めた。各回とも、青年農業士のほか農業簿記を学びたい会員2名が参加。第1回は、単式簿記と複式簿記の違いについて、第2回は、複式簿記について勘定科目の仕分けや貸借対照表と損益計算書の作成の仕方、第3回は、損益計算分岐点の算出方法や損益分岐点分析などの講義が行われた。

参加者は熱心に受講し、最終日には「簿記の重要性を感じた」、「これから親に代わって自分で申告するようになるので勉強になった」、「簿記の仕組みを習い、経営の考え方が変わった」との声が聞かれた。また、今後こういった研修会があれば参加したいとの意見があり、当課としても、引き続き支援していきたい。



農業簿記の講義

4. みかんの出前授業を実施

県では、地産地消・食育の取組の一環として、県内小学校等に農水産物の提供を行っている。今回みかんの提供に伴い、11月16日、和歌山市立小倉小学校の6年生52名に対してみかんの出前授業を実施した。

当課の岩橋普及指導員が「みかんのお話」として、1年間の農作業や、おいしいみかんの見分け方などについて説明した。

また、柑橘類は種類が多く大きさや形が色々あることを知ってもらうため、県内で

栽培される果実の実物を用意し、体感できるようにした。児童からは「ジャバラは初めて匂いをかいだ」「レモンはいい匂い」「そんなに大きなみかんがあるの？」などさまざまな質問や感想があった。

また、今日体験したことを保護者に話して一緒にみかんを食べてほしいと伝え、地産地消・食育への理解が家庭へ伝播するようにした。

当課では、今後も地域農業や食に興味を持ってもらえるような取組を実施していく。



出前授業



柑橘類の果実を体感

Ⅱ 那賀振興局

1. 有機農産物・特裁農産物の販路拡大

～那賀地方有機農業推進協議会～

那賀地方有機農業推進協議会（会長：関 弘和氏）は、11月末、近鉄百貨店東大阪店內へ出店する類（るい）農園直販所において会員が生産した有機農産物等の販売を計画しており、11月8日に集荷に関する説明会を開催した。

類農園は、近畿を中心に活動する株式会社類設計室の農業部門であり、大阪を中心に複数の直売所で有機農産物や特別栽培農産物などこだわりの野菜を多く取り扱っている。

当日は会員を含め15名の農業者が参加。類農園の営業担当者である小川泰文氏が集荷場における出荷までの作業工程や集荷日時について説明した。また、近鉄百貨店の直販部門担当者も参加し、新たな直販所の概要や、使用する梱包資材の購入方法の説明を行った。

参加者はそれぞれの説明を熱心に聞いており、地域ブランドブースを作っていたらと積極的な姿勢であった。

農業水産振興課では、グループの自主的な取組を今後も支援していく。



説明会の様子

2. 安楽川小学校で「地場産農産物についての出前授業」を実施

11月24日、当課は紀の川市立安楽川小学校の6年生2クラス61名を対象に、地場産農産物についての出前授業を行った。

今回の授業は、紀の川市河南学校給食センターから『「地場産農産物を使った給食レシピを考える学習」の一環として、地域農家から話を聞きたい』という当課への依頼がきっかけとなっている。当課では、地域農業への理解と関心を深めるとともに、学校給食への地元食材利用促進のために、紀の川市農林振興課や食材提供を行っている紀の川市環境保全型グループとも連携して実施することとなった。

学習内容は、（1）地場産農産物について学ぶ （2）地場産農産物を使ったレシピを考える （3）給食を食べる の三段階で行う。

最初に、給食センターの石田栄養教諭が、毎日の給食の中で地場産農産物が使われていることを説明した後、紀の川市における農業の概要について、紀の川市南主事と当課川村普及指導員が統計値などを交えながら説明した。

その後、紀の川市環境保全型グループの井上達也氏と高橋範行氏から、農業生産における工夫や思い、学校給食への食材提供などについて、スライドや野菜の実物を用いながら説明を行った。児童達からは「天敵を使ったり、モグラ対策に工作したり、農

家さんが色々な工夫を重ねていることに驚いた」「給食センターに食材を収める時の農家さんの気持ちを知ったので、これからは苦手な物が出てきても頑張っ食べたい」「紀の川市で野菜や果物がたくさん育てられていることが分かった」といった感想が聞かれた。

翌日は、石田栄養教諭と安楽川小学校の岩崎教諭の指導により、児童達はブロックリーやはくさいなど、これから収穫される農産物を使った給食レシピの考案作業を行った。今後、クラス毎に1品のレシピが採用され、来年2月に給食で提供される。その際には改めて、児童達と今回講師を務めた農家との交流を行う予定にしている。

当課では、本取組が来年度以降も継続的に行えるよう、関係機関と連携していく。



農家による講話（井上氏）



メニュー考案作業中

3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催

県では、有機栽培や特別栽培等の環境保全型農業を推進するため、エコ農業実証モデル園を設置しており、11月28日紀の川市風市に設置しているたまねぎのモデル園で栽培技術現地研修会を開催したところ、14名の参加があった。

環境保全型農業を実践している園主の井上達也氏から、モデル園に加え、自身が行っている施設野菜についての説明を行った。

参加者から「有機栽培レベルの農業は大変か？」という質問に対し、井上氏は「大変。このほ場は問題ないが別のほ場では難しく特別栽培レベルに変更している」と回答していた。

その他、様々な質問が出たが、井上氏からは質問ひとつひとつに丁寧に回答、解説した。環境保全型農業への理解を深め、今後の営農に活かすための意義ある研修会となった。



研修会の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施

伊都地方では、かつらぎ町、橋本市および九度山町において、すもも・もも・うめ及びさくらを加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害が増加している。

令和4年9月末までの被害樹累積は、かつらぎ町で、すもも56地点324本、もも57地点204本、うめ31地点117本、橋本市で、すもも33地点121本、もも31地点39本、うめ36地点79本、九度山町で、すもも1地点1本、もも1地点1本であった。

10月28日から11月28日までの6日間、被害の早期発見と早期対策を目的として、かつらぎ町内と橋本市内の既発生園の周辺地域において、J A紀北かわかみ・橋本市・かつらぎ町・N O S A I・J Aグループ農業振興センター・県の関係機関など、のべ約235人が特別警戒調査を実施した。かつらぎ町で約1,470地点、橋本市で約550地点の調査を行い、約300本の新たな被害樹を確認した。

今回の調査でも既発生園だけでなく、その周辺地域においても新たな被害樹が確認された。また、12月上旬に九度山町内においても調査を実施する予定である。

農業水産振興課では、引き続き関係機関と連携して、被害の早期発見、早期対策に取り組んでいく。



特別警戒調査概要説明



うめ園の調査

2. クビアカツヤカミキリ被害対策研修及び農作業安全研修を開催

11月29日、かつらぎ総合文化会館において、クビアカツヤカミキリ被害対策研修及び農作業安全研修を2部構成で開催し、生産者や関係機関職員など57名が参加した。

第1部は、クビアカツヤカミキリの生態、被害発生状況及び防除対策について、当課の間佐古普及指導員から説明し、その後、令和4年度の病虫害防除対策事業の事業内容、申請方法について、当課の米田主査から説明した。

第2部は、農業機械の安全対策として「スピードスプレーヤ、草刈り機、高所作業機等の安全対策」について、やまびこジャパン(株)西日本支社の業務課主任の福田氏と関西支店の山本氏を外部講師として招き、農業機械の正しい使い方や安全対策等について説明を行った。受講者からは、クビアカツヤカミキリの生態、防除方法、補助事

業及び農業機械の安全な取り扱い方法等について意見や質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、クビアカツヤカミキリの啓発活動、防除対策支援および農作業安全等について指導を行っていく。



研修会の開会挨拶



農業機械の安全対策

3. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会の開催

11月29日、高野山麓農産物産地化協議会（構成：農業者、農産物販売業者、橋本市、橋本市農業委員会、JA紀北かわかみ、伊都振興局、オブザーバ：かつらぎ町、九度山町、高野町）は、橋本市民会館において高野山麓精進野菜の出荷目揃え会を開催し、生産者及び関係者併せて14名が参加した。生産者が栽培しただいこん、はくさい、さといも等を持ち寄って出荷基準の統一を行った。

参加者からは「だいこんやさといもの出荷基準の重さや大きさ」、「袋など出荷資材サイズ」等の質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて高野山麓精進野菜の生産拡大を支援していく。



目揃え会の様子

4. 各農業団体が橋本市まつせ・はしもとで地域農産物をPR

11月5～6日、橋本市運動公園で開催された「第16回まつせ・はしもと～柿まつり～」に橋本市生活研究グループ連絡協議会（会長：栗林照代氏）、橋本市4Hクラブ（会長：曾根嘉人氏）、高野山麓農産物産地化協議会（会長：北岡慶久氏）伊都地方農業振興協議会（会長：中阪雅則氏）が参加し、地域農産物のPRを行った。

生活研究グループは、手作りこんにゃく、草餅、金山寺みそなど農産加工品を販売し、4Hクラブは、かき、温州みかん、はくさいなど農産物の販売、高野山麓農産物産地化協議会は、高野山麓精進野菜の販売を行った。また、伊都地方農業振興協議会では、柿料理レシピ集や個包装したカット柿の配布を行い、かきの消費拡大PRを行った。

当課では、引き続き各団体の活動を支援していく。



橋本市生活研究グループ連絡協議会
による農産加工品のPR販売



伊都地方農業振興協議会によるかき
のPR

IV 有田振興局

1. 保田小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！

有田市農業士会（会長：上野山良知氏）では、平成13年から摘果や収穫の指導を行っており、11月7日、有田市立保田小学校3年生（37名）を対象に、有田市農業士会員5名と農業水産振興課職員指導の下、みかんの収穫体験を行った。

当日は6班に分かれ、美味しいみかんの見分け方や「ほぞ」が高くなるように2度切りすることなどを指導した。収穫後は有田むきを体験した後、全員で試食をした。また、3年生が収穫したみかんは給食に提供された。

摘果、収穫体験と1年を通じて学習したことで、みかんづくりの苦労や収穫の喜びを子ども達に体験してもらうことができた。

今後も当課では農業士と連携して農業教育の支援を行っていく。



みかんの収穫体験

2. 糸我小学校児童表敬訪問（農業体験報告）

11月7日、有田市立糸我小学校5年生2名が有田振興局長を表敬訪問し、1年間の農業体験の報告と、収穫したお米の贈呈を行った。

当日は田んぼの学校山崎校長や、糸我地区青少年育成会の山崎会長も参加し、上野山局長を囲んで意見交換を行った。児童からは「お米作りは大変だったけれど、達成感があった」、「美味しかった」などの意見が出ていた。来年は次の5年生にバトンタッチとなる。

今後も、当課では地域の農業者と共に、食育活動の支援を行っていく。



児童代表と山崎校長による表敬訪問

3. 「みかん」の贈呈式及び出前授業開催！

11月16日、県果樹園芸課の食育事業の一環として、有田川町立田殿小学校1年生15名を対象に「みかん」の贈呈式及び出前授業を行った。

贈呈式では、児童代表が、岩倉果樹園芸課長から、みかんを受け取った。

授業では、城村普及指導員から、みかんの生産状況やおいしいみかんの見分け方などについて、みかんにまつわるクイズを交えながら説明をした。

普及指導協力委員の稲住昌広氏から、農業の苦労や大切さ等の話があり、収穫かごを使った収穫の実演をして頂いた。

管内では、地元特産品のみかんについて学ぶ食育授業が活発に行われており、当課では、引き続き支援していきたい。



贈呈されたみかんを片手に記念撮影



稲住普及指導協力委員による講話

4. 第114回有田中央高等学校農産物品評会の審査

コロナ禍で2年間延期していた有田中央高等学校農産物品評会が11月20日に開催されるにあたり、前日の11月19日に審査会が行われ、当課から城村普及指導員と小山普及指導員が出席した。この品評会は、高校創立以来続く伝統的行事で、主に生徒による地域農家への出品依頼を通して地域との接点を持つとともに、農業についての理解を深め、地域に愛着と誇りを持ち、地域社会の中核を担っていかうという意欲を育むことを目的に開催されている。

審査会当日は、JAありだ、県果樹試験場、当課の合計7名の審査員が糖度、酸度、色つや、玉揃いなどの審査基準に



審査の様子

従って有田地域の農家から出品された41点の温州みかんを審査し、県知事賞など7賞を選んだ。

今後は、さらに出品数を増やし、生徒の企画力の向上やみかんの勉強を指導したいと担当の教員は語っていた。



県知事賞に選ばれた温州みかん

5. 吉備湯浅PA（上り）において「有田みかん」の日本農業遺産認定をPR

有田地方の4市町と農協らで組織する有田地域農業振興協議会と有田みかん地域農業遺産推進協議会は、11月27日、吉備湯浅PA（上り）において、有田みかんと「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」の日本農業遺産認定のPRイベントを開催した。

PAでは、訪れた人たちに向けて、日本農業遺産認定パネルの展示と説明動画を放映し、その美味しさを味わってもらえるよう有田みかんとPRチラシを配付した。

今年は決まったばかりのロゴマークを貼り付けたSP（スタンドパック）にみかんを入れて配布した。加えてその場で、有田みかんや日本農業遺産認定をSNSで拡散してもらえた方にはみかん船に載せてあるみかんを詰め放題とした。

当日は天気も良く、みかんの配布は好評で、有田みかんと日本農業遺産への認定を約800名以上にPRすることができた。



PRイベントの様子



ロゴマークの入ったSPで日本農業遺産認定と有田みかんをPR

V 日高振興局

1. 日高地方4Hクラブ連絡協議会が日高地方農村青年交流会を開催

11月3日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：岡 有輝氏）は県内在住で農産物に関心がある青年を対象として、日高地方農村青年交流会を開催した。本交流会は農業に従事する青年と同年代の消費者が交流することで、お互いの理解を深めるとともに、日高地方の農産物を知ってもらうことで地産地消につなげることを目的としており、クラブ員14名と一般参加者男女あわせて6名が参加した。

当日は、印南町公民館に集合し、岡会長の開会挨拶に続いて、クラブ員から日高地方の特産である野菜や花、果樹について説明を行った。参加者はクラブ員からの説明に熱心に耳を傾け、発表後は、「知らないことも多く、勉強になった」と、感想を口にしていた。

次に、西山農園のハウスに移動し、クラブ員と参加者は会話を交えながら、カーネーションを収穫した。「色とりどりのカーネーションはきれいで、持って帰ったら家に飾りたい」と参加者は喜んでいた。

最後に、御坊市4Hクラブ連絡協議会プロジェクト農園に移り、さつまいもの収穫体験と採れたさつまいもで作った焼き芋の試食を行った。クラブ員と参加者は協力してくわやスコップを使いながら掘り、交流を深めた。また、その後の焼き芋の試食では、さつまいもの品種による味や食感の違いを楽しんだ。

4Hクラブ員などの若い農業者が実際に同年代の消費者と交流する機会は少なく、今回の交流会はクラブ員にとっても良い経験となった。今後も当課では4Hクラブの活動を支援していく。



日高の農産物についての説明



カーネーションの収穫体験



さつまいもの収穫体験

2. 日高地方農業士会女性部会現地研修会を開催

日高地方農業士会女性部会（部会長：菊地晴美氏）では、女性の農業士の相互研さんと親睦を図ることを目的に、毎年市町持ち回りで現地研修会を行っている。今年度は、御坊市で11月7日に開催され18名がヨシダエルシス（株）と御坊寺内町を見学した。

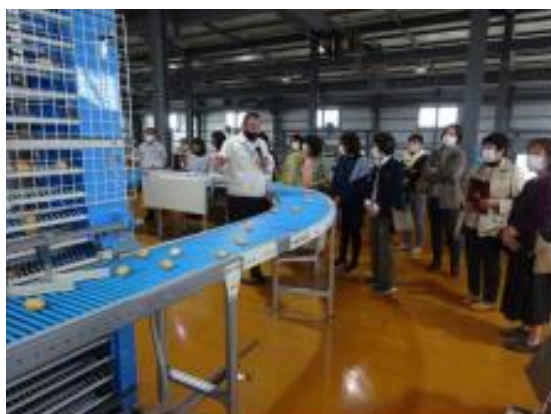
ヨシダエルシス（株）は、御坊市に本社を置く養鶏の自動給餌システムで国内トップのシェアを誇る企業である。部会員の中に養鶏業者はいないが、地元企業を見学する機会がないため、興味深く説明を聞いていた。

また、御坊寺内町は、本願寺日高別院を中心に問屋などが軒を並べて栄えた地域であり、語り部の案内により御坊市の成り立ちや歴史について学んだ。

地元でありながらも、日頃接することが少ない場所の説明を聞きながら実際に歩くことにより、日高地方の産業や歴史の魅力を再確認することができ、有意義な現地研修となった。

現地研修終了後、御坊市長、日高振興局長を迎えて意見交換会を行った。各家庭における女性の経営への参画や後継者対策、労働力不足等の意見が出され、意見交換会は大いに盛り上がった。

今後とも当課では女性の農業士の活動や活躍の場を広げる取り組みを支援していく。



ヨシダエルシス（株）で説明を受ける



御坊寺内町を見学

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】

～ウメ「南高」摘心樹のせん定講習会を実施～

うめ「南高」の摘心講習会（4～5月実施）参加者から摘心樹のせん定方法を教えてほしいとの要望があったことから、10月15日に田辺市秋津川、11月8日に田辺市中三栖、11月16日に田辺市新庄町の各展示ほにおいてせん定講習会を実施したところ、生産者、新規就農者、JA紀南営農指導員、農業水産振興課普及指導員の計48名が参加した。

当課の江畑普及指導員から①主枝や垂主枝の骨格作りは基本的なせん定方法と同じ、②摘心を数年実施すると結果層が高くなる、③結果枝が密集しすぎると下枝が陰になり枯れ枝が増える等をポイントとして説明しながら実演するとともに、参加者も実際にせん定し、理解を深めた。

また、秋津川の展示ほでは、青梅の収穫作業の効率と安全性を高めるため、摘心樹について4～5mあった主枝の高さを約2.5mまで切り下げており、慣行樹との結実層の違いについても説明した。なお、次年度には上富田町でも展示ほを設置する予定である。

当課では、うめ「南高」の安定生産に向け、今後とも生産者や関係機関と連携しながら、調査研究や研修会を実施していく。



ウメ「南高」摘心樹のせん定講習会（左：秋津川、右：中三栖）

2. 農繁期を前に、農作業安全講習会を実施

県内の農作業事故は11～12月に多発していることから、10月27日の4Hクラブ定例会、11月8日の農業士会役員・支部長会に併せて農作業安全講習会を実施し、当課木村技師から事例をもとに事故防止のポイントを説明した。

特に多いのは転落と転倒のため、みかんの収穫やうめのせん定時の脚立を使った作業で注意が必要なことから、天板に乗らないことや開脚防止チェーンをかける等、リスクを下げる基本的な方法について確認した。

また、使用頻度の高い刈払機について、慣れた場所や短時間の作業でも、刃の破片や地面の異物が飛んできて負傷した事例を紹介し、すねあてやゴーグル等の防護具を身に着けるといった作業前の準備を怠らないよう注意を促した。

参加者は、危険を感じた経験や普段の作業方法を振り返り、安全性を確保する重要性について再認識した様子だった。

当課では農作業事故ゼロを目標に、引き続き参加者に応じた講習会を開催し、農作業安全について啓発していく。



農作業安全講習会（左：4Hクラブ定例会、右：農業士会役員・支部長会）

3. 女性農業者セミナーを開催

11月9日、当課主催による女性農業者セミナーを龍神市民センターで開催し、農業士会女性部会員及び生活研究グループ員等21名が参加した。

このセミナーは、農業経営や地域づくり活動への女性の積極的な参画支援を目的に、令和2年度から毎年開催している。

田辺市龍神村で畜産業を営む「とりとんファーム」の石崎亜矢子氏から「畜産農業で村おこし～新規就農と地域商品開発～」と題して講話があった。

石崎氏は平成29年にIターンで移住後、夫と養鶏に取り組むため、土地や飼料の仕入れ先を探して鶏舎も自ら設置し、翌年に「とりとんファーム」を開業した。

地域や地元企業と深く関わり、ともに発展していくことを目指し、①豆腐屋のおからを餌の一部に使用、②プリン材料として洋菓子店に卵を納入、③カフェで提供する野菜の畑に鶏ふんを施用する等、村内での取組を進めている。

また、県畜産試験場養鶏研究所が令和2年に開発した「龍神コッコ」の飼育をいち早く始めるとともに、普及協議会を立ち上げ、阪神百貨店等への販路拡大にも取り組んでいる。

さらに、「龍の里づくり委員会」のメンバーとして、イベントの参画や県外からの移住希望者の受け入れに携わる等、自らの経験を生かした活動もされている。

参加者からは、「前向きに取り組まれている姿勢を見習いたい」、「龍神コッコの卵はどこで買えるのか」などの感想や質問があった。

当課では、今後も女性農業者の活躍を後押しするためにセミナー等を開催していく。



石崎亜矢子氏による講話

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほを設置～

11月25日、くろしお莓生産販売組合(会長:栗野稔近氏)は、天敵(カブリダニ)を利用したハダニ類の防除実証ほを設置した。

いちごの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬とそれ以外の方法を併用した防除方法の導入が必要となっている。

当日は、農業水産振興課岩橋普及指導員から天敵導入にあたっての管理方法、散布できる農薬の説明を行った後、園主の松出氏が天敵を放飼した。

当課としては、今後、実証ほのハダニ類と天敵の生息数を調査することで天敵の効果を確認し、現地研修会などを通じて地域への普及を図っていく。



園主による天敵放飼



天敵を葉の表面に放飼

2. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会が第2回UIターン就農相談フェアに出展～

11月20日、第2回UIターン就農相談フェアが和歌山県JAビルで開催され、出展したみくまの産地協議会のブースに1組2名が訪れた。

当課上門・岩橋普及指導員が、農業の基礎技術と管内農作物の栽培状況及びみくまの産地協議会での現況の受入体制を紹介した。さらに、JAみくまの営農経済センター亀井次長から、栽培技術習得支援、JAトレーニ



みくまの産地協議会での就農相談

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生インターンシップ研修を実施

11月2～18日、1年生14名を対象にインターンシップ研修を実施した。

研修先については、事前に学生から卒業後の進路希望を聞き取り、将来に繋がる農業法人や先進的な取組を行っている農家などに受入をお願いした。

非農家出身の学生も多く、実際の農家での栽培管理や出荷調整作業など慣れない環境の中、初めて行う作業にも真剣に取り組み、これからの学校生活の中でも活かすことができる貴重な体験をすることができた。

なお、インターンシップ研修は職業観や社会人としての意識を醸成することを目的に、2年生でも15日間実施する。



みかんの選果中



ブロッコリー畑での受け入れ農家と学生

IX 就農支援センター

1. 令和4年度第2回UIターン就農相談フェアを開催しました

11月20日、和歌山県JAビル（和歌山市）で第2回UIターン就農相談フェアを開催した。

当日は、県相談ブースをはじめJA関係、各市町、わかやま移住定住支援センターなどを含む、12団体の相談ブースを設け、県内外から相談者が参加した（県内8名、県外3名）。県内で就農を考えている相談者から、「就農についてアドバイスが欲しい」、「研修制度について」、「補助金・農地について」などの質問が寄せられ、それぞれの質問に対応した。

また、相談フェアと同時に新規就農セミナーを開催した。過去に農林大学校の研修を修了し、現在県内で柑橘類を栽培している方を講師に招き、「就農までの経緯」、「就農して良かったこと・苦労したこと」などについて話を聞いた。相談会全体を通じて、「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。

なお、7月に開催した第1回と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、完全予約制で運営するとともに、徹底した対策を取り実施した。



就農相談の様子



新規就農セミナー

普及活動現地情報 発行・編集

| | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 和歌山県農林水産部経営支援課 | TEL073-441-2931 | FAX073-424-0470 |
| 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL073-441-3377 | FAX073-441-3476 |
| 那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-61-0025 | FAX0736-61-1514 |
| 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-33-4930 | FAX0736-33-4931 |
| 有田振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0737-64-1273 | FAX0736-64-1217 |
| 日高振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0738-24-2930 | FAX0738-24-2901 |
| 西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0739-26-7941 | FAX0739-26-7945 |
| 東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0735-21-9632 | FAX0735-21-9642 |
| 和歌山県農林大学校 | TEL0736-22-2203 | FAX0736-22-7402 |
| 和歌山県農林大学校就農支援センター | TEL0738-23-3488 | FAX0738-23-3489 |